ず。無縁の悪人謗法の者に祕法をあたえずば、覺徳比丘は無量の破戒の者に涅槃經をさづくべからず。不輕菩薩は誹謗の四衆に向ていかに法華經をば流通せさせ給しぞ。されば機❶に隨て法を說と申は大なる僻見なり。問云、龍樹・世親等は法華經の實義をば宣給ずや。答云、宣給はず。問云、何なる教をかのべ給し。答云、華嚴・方等・般若・大日經等の權大乘顯密の諸經をのべさせ給て、法華經の法門をば宣させ給はず。問云、何にをもってこれをしるや。答云、龍樹菩薩の所造の論三十萬偈。而ども盡て漢土日本にわたらざれば其心しりがたしといえども、漢土にわたれる十住毗婆沙論・中論・大論等をもって天竺の論をも比知して此を知なり。疑云、天竺に殘る論の中にわたれる論よりも勝たる論やあるらん。答云、龍樹菩薩の事は私に申べからず。佛記給、我滅後に龍樹菩薩と申人南天竺に出べし。彼人の所詮は中論という論に有べしと佛記給❷。隨て龍樹菩薩の流、天竺に七十家あり。七十人ともに大論師なり。彼の七十家の人々は皆中論を本とす。中論四卷二十七品の肝心は因緣所生法の四句の偈なり。此の四句の偈は華嚴・般若等の四教三諦の法門なり。いまだ法華開會の三諦をば宣給はず。疑云、汝がごとくに料簡せる人ありや。答云、天台云、莫以中論相比。又云、

❶第37紙18行裏　❷第38紙18行裏

天親龍樹内鑒冷然、外適二時宜一等云云。妙樂云、若論二破會一者未若二法華一故云云。從義云、龍樹天親未若二天台一云云。問云、唐の末に不空三藏一卷の論をわたす。其名を菩提心論となづく。龍猛菩薩の造なり云云。弘法大師云、此論は龍猛千部の中の第一肝心の論と云云。答云、此論一部七丁あり。龍猛の言ならぬ事處々に多し。❶故に目錄にも或は龍猛或は不空と兩方也。❷いまだ事定らず。其上此論文は一代を括れる論にもあらず。荒量なる事此多し。先唯眞言法中の肝心の文あやまりなり。其故は文證現證ある法華經の卽身成佛をばなきになして、文證も現證もあとかたもなき眞言經に卽身成佛を立候。又唯という唯の一字は第一のあやまりなり。事のていを見るに、不空三藏の私につくりて候か。❸時の人にをもく(重)せさせんがために事を龍猛によせたるか。其上不空三藏は誤る事かずをほし。所謂法華經の觀智の儀軌に、壽量品を阿彌陀佛とかける、眼の前の大僻見。陀羅尼品を神力品の次にをける、屬累品を經末に下る、此等はいうかひなし。さるかと見れば、天台の大乘戒を盗で代宗皇帝に宣旨を申五臺山の五寺に立たり。而も又眞言の教相には天台宗をす(爲)❹べしといえり。かたがた誑惑の事どもなり。他人の譯ならば用る事もありなん。此人の譯せる經論は信

❶第39紙20行(眞)　❷也＝に(線)　❸か＝を(他線)　❹第40紙18行(眞)